



Fig.5 臨時データロガー観測点、臨時テレメータ観測点および周辺150km以内の定常観測点（東北大学、気象庁、Hi-net）の検測値を併合し、DD法により求めた余震分布（7/26 0:13 - 8/3 14:00 $M \geq 2.5$ ）。（a）～（d）はFig. 2に同じ。速度構造は東北大学ルーチン構造を使用した。☆は本震（7/26 7:13 $M 6.2$ ）、前震（7/26 0:13 $M 5.5$ ）、最大余震（7/26 16:56 $M 5.3$ ）を示す。赤、青、緑はそれぞれ、前震から本震前まで、本震から最大余震前まで、最大余震から本震後1日間の余震を示す。